

# 熊本県立大学COC通信

熊本県立大学  
COC推進室

本学COC事業は、熊本県、八代市、天草市、和水町、相良村、五木村の六つの自治体と連携して取り組んでいます。今年上半期における、各市町村との連携事業の取り組みをご紹介します。

## 八代市における取り組み

「ピザ@やつしろ」「八代産品動画  
コンテスト」「トマトフェスタ」  
「県南フードバレーフォーラム」

県内第二の都市・八代市を舞台に、学生GPやCOCの取り組みが活発に展開されています。

学生GPとして研究を進めている「ピザ@やつしろ」(総合管理学部・小菌研究室)では、市の農業の六次産業化を推進するため、豊富な農水産物を活用し、ピザの食文化を地域に根付かせるプロジェクトを立ち上げています。三カ年計画を立て地域のイベントへの参加や学祭でのアン

ケート調査、さらには農家の方と考案したピザの試作品作りに取り組む他に、雑誌を製作する研究室の特色を生かした、リーフレットの定期発行にも取り組んでいます。

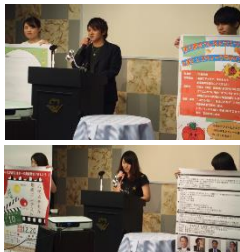
同じく総合管理学部の丸山研究室では、学生GPで「八代産品動画コンテスト」、COC地域志向教育研究で「トマトフェスタ」を通じた地域活性化の実践型教育」に取り組んでおり、八代市・JAやつしろ・エフエム八代・菓子店・トマトフェスタ実行委員会等、様々な組織と連携して八代の農業を盛り上げていく活動を進めています。活動を通してマーケティングや課題解決のための

「PDCAサイクル」を学ぶと共に、地域の方々との交流を深めています。さらに、これらの活動をPRするため、9月28日の「第12回八代の未来を語る会」に研究室の代表が出席し、県の小野副知事をはじめ、行政や農業関係者等約80名の前で、取り組みを発表しました。

11月21日には、「くまもと県南フードバレーフォーラム」を開催し、研究成果発表やポスター展示を通して、活動をPRする予定です。また、学内の有志メンバーで「トマト・プロジェクト」を立ち上げ、トマトのブランド化を題材に、フューチャーセッションも展開しています。



パンフレット発行を交えながら、八代の農水産物を応援しています



<http://y-yokamon.xsrv.jp/>  
動画コンテストは公式HPを立ち上げていますので、ぜひ検索を!

## 天草市における取り組み 「空き家」「アート」「地方創生」

COC地域志向教育研究として、環境共生学部・居住環境学科の高橋准教授が「アートによる地域活性化研究」を昨年から継続して実施しています。今後は、天草市が所有する崎津教会近くの空き家を、世界遺産登録を見据えた観光客の休憩所にリフォームするためのデザイン監修にも関わる予定です。テレビ番組「大改造!! 劇的ビフォーアフター」にも出演された「匠」でもある高橋准教授によれば、「特徴ある家々が増えれば、アート・デザインによる地域づくりの起爆剤にも成り得る」とのこと。新潟や瀬戸内における先進的なアートイベントを参考に、天



崎津集落の空き家のリノベーションに向けた調査を行う高橋研究室の学生

草ならではの取り組みの可能性について研究されています。

この他、専門家を招いて地域の企業を支援する天草信用金庫から、環境共生学部の松添教授がトマトの水耕栽培に取り組み新規参入農家のアドバイザーとして招かれる等、産学官金連携にも注目が集まっています。

**「和町における取り組み」「学生FW」「和水の里活動」**

COC地域志向教育研究として、和水町の地域課題解決のための実践的教育に取り組む総合管理学部の松尾研究室の学生が、9月11日に現地でフィールドワークを実施しました。町職員の案内で町の観光施設等を訪問し、学生の視点で町を見て回り、町の課題を調査しました。特に、肥後民家村や道の駅・菊水ロマン館について、施設をPRする方法やネーミング、若者が遊ぶ施設としての魅力について気づいた意見を町に提言しました。

一方、同町で毎月一度行われている「なごみの里 里山再生活動」に

は本学も長年にわたり参加しております。10月には稲刈り、12月には餅つきを行う等、地域の活力を生み出す場所を、学生の学びと経験の場所として提供してもらっています。活動に関心がある学生は、地域連携・研究推進センターにぜひお越しください。



意見交換の場  
松尾研究室  
で行う学生

**「KUMAJECT」「フューチャーセッション」**

学生有志による地域の元気作りプロジェクト「KUMAJECT」(平成19年に始動、総合管理学部・上拂准教授他)の活動が、人吉・球磨地方で継続展開中です。相良村役場やお茶農家と共同でスイーツ作り(お土産づくり)に取り組むチームや、大人向け観光ツアーを企画・実施するチーム等が、地域の方々の協力を



2年生のチームは人吉球磨地域活性化のために観光ツアーを計画。夏休み期間はこの準備に取り組み、10月3日にはモニターツアーを実施しました。

得ながら活動を進めています。「相性の良くなる村」のキャッチフレーズの下、役場と学生が連携する取り組みでは、住民も巻き込み「相性が良くなる村のヒト・モノ・場所」のアイデアを考える「フューチャーセッション」も計画中です。

**「五木村における取り組み」「コバサク」「学習支援」「五木産材啓発シンポジウム」**

7月25日(土)、8月8日(土)の2日間にわたって、「五木の子守唄」や日本一の清流・川辺川で知られる球磨郡五木村で行われた、伝統的な焼畑農法(コバサク)体験に、五木村の財政を研究している総合管理学部の小泉教授とゼミ生をはじめ、本学の学生と教職員延べ11名が参加しました。整地作業や火入れの作業をはじめ、11月には栽培した小豆を

使うゼンザイ作りも企画されており、研究をきっかけに活動の幅を広げています。この他、本学の学生グループによる村の小学生を対象とした学習支援活動や、五木村や本学で五木産材普及啓発シンポジウムも開催されました。また、学生の住教育のフィールドとして五木村を舞台に調査を進めている環境共生学部・居住環境学科の佐藤准教授は、「住教育は、自ら生きている住まいやまちを文化として愛おしむ価値観を育みます。住まいの学習を通して地域の歴史・文化を学ぶことのできる住教育教材の研究と開発を目指したい」と抱負を述べられています。

今回取り上げた取り組み以外にも、本学が連携自治体を舞台にした研究や教育、社会貢献は数多くあります。下半期の取り組みについても、引き続き紹介していきます。



小泉研究室学生によるコバサク体験の様子